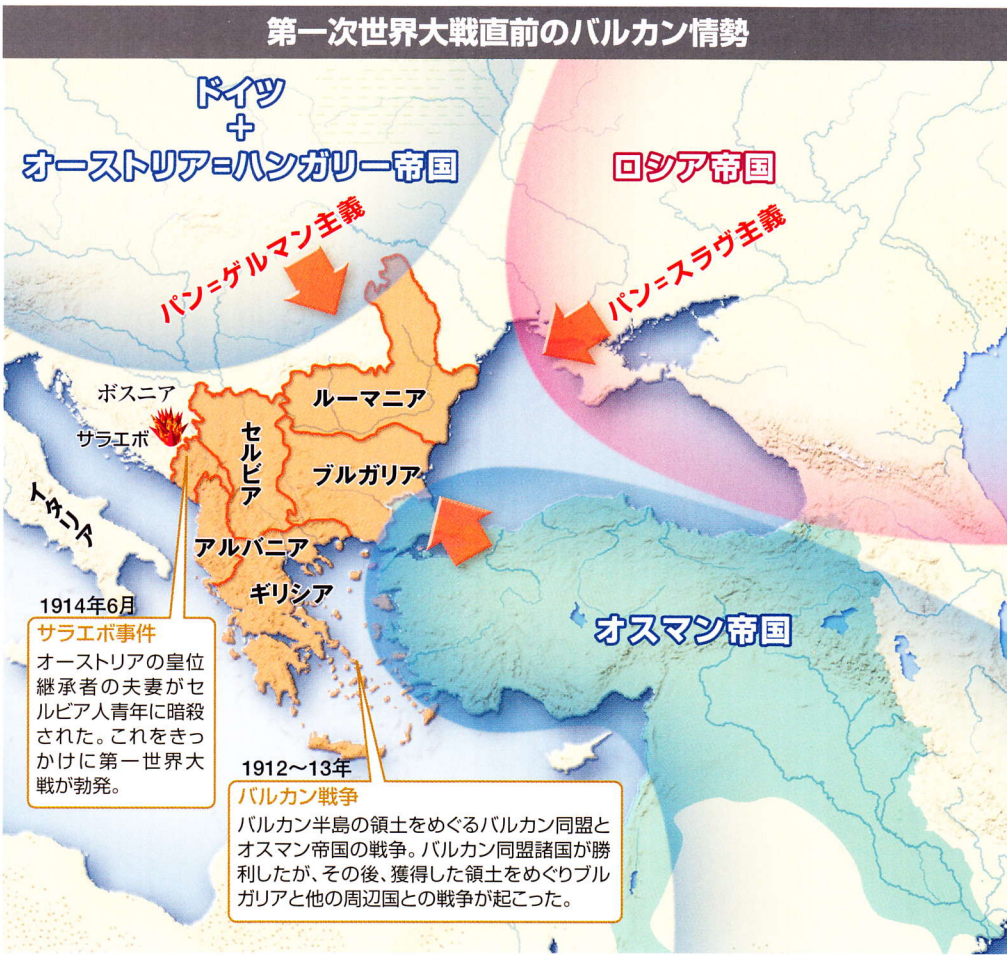


「ヨーロッパの火薬庫」から 始まった第一次世界大戦



各国の利害がからみ合う
「ヨーロッパの火薬庫」バルカン半島で、
第一次世界大戦の
口火が切られた。



1914年6月
サラエボ事件
オーストリアの皇位継承者の夫妻がセルビア人青年に暗殺された。これきっかけに第一次世界大戦が勃発。

1912~13年
バルカン戦争
バルカン半島の領土をめぐるバルカン同盟とオスマン帝国の戦争。バルカン同盟諸国が勝利したが、その後、獲得した領土をめぐるブルガリアと他の周辺国との戦争が起こった。

バルカン半島を火薬庫にした 大国、小国の思惑

オスマン帝国の衰退にともない、19世紀以降のバルカン半島では次々と国民国家が誕生したが、多民族が混在する地域であったため、これらの国はしばしば国境をめぐって対立した。こうした状況をみたロシアは、スラヴ系諸民族の一体性を主張するパン・スラヴ主義を唱えて介入。これに対し、オーストリア・ハンガリー帝国はドイツのうしろ盾でパン・ゲルマン主義を唱え、パン・スラヴ主義を押さえ込もうとした。

1908年、オーストリアが突然ボスニアとヘルツェゴビナを併合すると、ロシアは12年にセルビアを中心にバルカン同盟を締結させて対抗しようとした。しかしロシアの意に反し、同盟諸国はイタリアと戦っていたオスマン帝国に戦争をしかけ（**第一次バルカン戦争**）、バルカン半島のオスマン帝国領のほとんどを奪った。さらに、獲得した領土の分配をめぐる、ブルガリアと周辺国との**第二次バルカン戦争**を起こした。この、ナシヨナリズムむき出しの領土争奪戦の結果、敗れたブルガリアがドイツ、オーストリアに接近するなど、バルカン半島は大国、小国の利害が複雑に絡み合う「ヨーロッパの火薬庫」となったのである。

世界大戦の始まりを告げた サラエボの銃声

1914年6月28日、オーストリア・ハンガリー帝国の皇位継承者夫妻が、陸軍演習の観閲に訪れていたボスニアのサラエボで、南スラヴ統一国家建設を目ざす秘密組織の援助を受けたセルビア人青年に射殺された（**サラエボ事件**）。オーストリアはセルビア政府の責任を追及。ドイツの支持を得て、7月28日、セルビアに宣戦を布告した。セルビアを支持するロシアが総動員令を出してこれに応じると、ドイツがロシアとフランスに宣戦。ここに第一次世界大戦が始まった。

現在も続く バルカンの民族問題

「ヨーロッパの火薬庫」とよばれ、第一次大戦の震源地となったバルカン半島における国民国家形成の苦闘は、現在もなお続いている。1990年代の旧ユーゴスラビア内戦では大量虐殺が発生し、その後もセルビアのコンボ自治州などで民族紛争が勃発した。また2006年にはモンテネグロが独立し、第一次大戦によって誕生した多民族国家ユーゴスラビアは完全に解体した。

Key Word パン=スラヴ主義

スラヴ系民族の文化的一体性を強調し、その統合を旨とする運動。19世紀前半にスロバキアの詩人コラルールが唱えた。クリミア戦争（P108参照）敗北後のロシアで、その威信回復・領土拡大の手段として政治的に利用され、ドイツのパン=ゲルマン主義に対抗するロシアの帝国主義イデオロギーとなった。